

知らない

円山璃保

うそーん？ まあそっくだよねー。

自分の良心を疑ったことないだろう

自分の器用さを憎んだことないだろう

これじゃ飯が食えんとおもっているだろう

眠っているふりをしていないか

自分が健やかだと思っているだろう

悲しそうな顔しやがって

ウチの部屋には窓がない

この部屋の奥行きはこの部屋の奥行きでしかない

まぶたを閉じると拓けた土地に出る

彼女はいつもそこにいる

知らない顔が暮らす街

スクリーン眺めつつ

献立わすれないようにもする

知らない顔で暮らす事実

空を捻じ曲げる事実

この地を踏み渡り歩く事実

よその家から盗んできた事実

あたたかな食卓で等分に切り分けられていく事実

打ち立てられた明るさを

皆で読み解く午後の教室

眩しそうな顔は泣きそうな顔